

## 情報以前の情報の獲得を目指して ～単元学習「耳を澄ます」～

田淵靖子

鳥取大学附属中学校 国語科

E-mail: tabuchi-y@tottori-u.ac.jp

**Tabuchi Yasuko (Tottori University Junior High School) :Aiming to acquire information before information — Unit learning“ Listen carefully”**

**要旨** — テレビやインターネット, SNS など様々な視覚情報に溢れた生活が当たり前になっている現代において, 情報で溢れれば溢れるほど, 意識されないまま消えてしまう情報が多くある。特に, 「人の話をきく」ことに代表されるような聴覚情報は無意識の中で受け流され, 消え去ってしまいがちだ。相手の話を集中して聞く, 奥底まで聞くことで, 「注意深くきく」ことの価値に気づかせたいと考え, 単元を構成した。無音の静止画や動画に音を付していく活動を通して, 生徒たちは「注意深くきく」ことへの意識を高めることができた。

**キーワード** きく, 傾聴

**Abstract** — In today's world where we are surrounded by various visual information such as television, the Internet, and SNS, the more information we are flooded with, the more information we lose without being aware of it. In particular, auditory information such as "listening to people" tends to be unconsciously passed over and lost. The unit was organized with the idea that by concentrating on listening to what the other person is saying and listening to the depths of the story, we would like to make students aware of the value of "listening carefully." Through the activity of adding sound to still images and videos without sound, the students were able to raise their awareness of "listening carefully."

**Key words** — hear or listen, listening attentively

### 1. はじめに

#### 1.1. 問題の所在

インターネットや SNS の普及により, 直接会わなくとも会話ができる便利な世の中になった。また, 人と会っているときに他のものを見ることは非礼であるとされているが, 現在では, 直接会っていても, 目の前の人と会話をするよりも携帯電話やタブレット端末の画面を見ているということが日常的になってきていると感じる。メールや SNS の普及により, 自分の都合の良いタイミングで用件を済ませることができるようになり, 送られてきた側も自分の好きなタイミングで見ることができるようになったことは便利になったと思う反面, 私たちから時間的, 精神的余裕をも奪ってしまっているようにも感じる。また, 自分の思ったことを「つぶやく」ことも当たり

前になっている。「つぶやく」ことは特定の相手に伝えることを意図しておらず, 自分の内面を吐露するということに主眼が置かれているように感じる。インターネットや SNS の発達により, 一方通行のコミュニケーションが急速に進んでいる上に, 2020年からの COVID-19 感染症の流行により拍車がかかっている。このような状況から, 人前で自分の考えを述べることや, 周囲と協力して課題を解決していくことに対して困難さを抱えている生徒も少なくないと思う。

ところで, これからの子供たちが生きる社会と求められる力について, 学習指導要領の中では次のように記されている。「生産年齢人口の減少, グローバル化の進展や絶え間ない技術革新により, 社会構造や雇用環境は大きく, また急速に変化し

ており、予測困難な時代となっている。～中略～子供たちがさまざまな変化に積極的に向き合い、他社と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築できるようにすることが求められている。」つまりは、生徒たちにとってこれから出ていく社会は予測困難な時代だということである。そのような社会を生き抜いていくためには、主体的に考え、周囲と協力して解決していくことが不可欠である。だからこそコミュニケーション力が重要視されるのだが、今回私が着目したのは「きく力」である。「伝える力」については重要視されがちだが、「きく力」については国語で身につける力というよりは日常生活の中で意識するように言われることが多いのではないだろうか。自分とは異なる背景を持つ人や年齢、性別を超えた人、考えを持つ人の声に耳を傾け、最適解に向けて試行錯誤を重ねられるようになるためにも、意図的に場の設定をし、より多くの実践を積む必要性を感じている。

## 1.2. 生徒の実態

本年度担当する生徒は、コロナ禍の影響から制限された状況下での話し合い活動を余儀なくされた生徒たちである。コロナ禍を経験している世代の多くはコミュニケーションをとることが苦手な話し合い活動を行ってもうまいかと言われがちだが、本学年の生徒は入学当初より、人と積極的に関わろうとする生徒が多く見られた。

国語の授業や学級での班活動でも、一人一人が自分の意見を述べ、話し合いを活性化させようとする姿が多く見られた。4月当初に行ったアンケートでは、「友達と意見交換することは楽しい」という質問に対し、「とてもそう思う」と答えた生徒は全体の65%以上を占めていた。(表1)

しかし、よく観察してみると、自分の意見や伝えたいことを一生懸命に伝えるあまり、相手が話しているところにかぶせて話をしてしまったり、話が終わる前に口を挟んでしまったりと、相手の話を「きく」ことへの意識が低く、相手の話を聞いていないという実態が浮かび上がってきた。

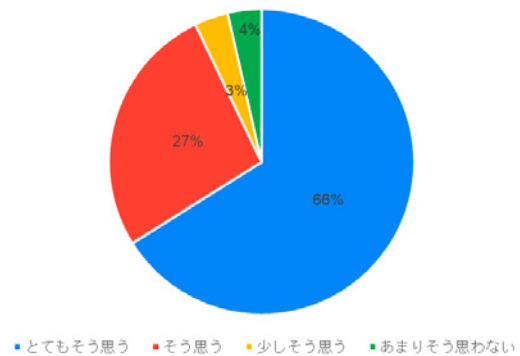


図1 友達と意見交換することは楽しい (アンケート)

## 2. 単元学習の実践

### 2.1. 単元設定の理由

人間の知覚の約8割は視覚からの情報とされており、聴覚からの情報は約1割だと言われている中で、生徒を取り巻く環境を見ても、テレビやインターネット、SNS など様々な視覚情報に溢れた生活が当たり前になっている。しかし、情報が溢れれば溢れるほど、情報が流れることは当たり前のこととなり、意識されないまま消えてしまうことが多く、特に、「人の話をきく」ことに代表されるような音声情報は無意識の中で受け流され、消え去ってしまっているという現状がわかった。

この単元は、学習指導要領 A「話すこと・聞くこと」に相当するが、そこにとどまらず、C「読むこと」にもつながることを想定して構成した単元でもある。表記されている文章だけを読むのではなく、行間を読む力を身につけることを期待した。「行間を読む」とは、隠れた意味や意図を読み取ることを意図しているが、具体的には、書かれている内容をそのまま受け止め、理解するだけでなく、何を伝えようとしているのか、訴えようとしているのかを、書かれている内容から想像して汲み取っていくことを指している。これは文字言語の文章だけでなく、学習や生活の中の会話や話し合いなどの音声を中心の言語でも同じだと考える。生徒たちはこの先、見知らぬ人や外国人と出会う機会も多くなり、より多様化する社会を生きていくこととなる。様々な人と意思疎通を図るうえで、相手の話に耳

を傾けることは欠かすことのできないコミュニケーションスキルである。相手がどのような状態にあるのか、どのような気持ちなのか、どのようなメッセージを受け取るのか、話者の表情や言動などから目に見えない情報を感じ取ったり、聞こえない音を推察しながら聞くためにも、様々な音声情報が行き交う日常生活の中で受け流されてしまいがちな音声に耳を澄ませたり、細部にまで耳を澄ませたりするような「きく」力が必要だと考える。このように「行間を聞き取る」ことで、話者の心情や本当に伝えたいことをより正確に、豊かに理解することにつながることを考えている。この「きく」力は、すべての学習活動や日常生活の基盤となる大切な力であり、ひいてはその場で瞬時に「空気を読む」、「付度する」、「状況を判断する」ということにもつながると考え、本単元を構成した。

## 2.2. 授業の実践

### 1 単元名 耳を澄ます(1年)

～情報以前の情報の獲得を目指して～

### 2 単元目標 ～学習活動の中のやりくり～

- 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすることができる。

〔知識及び技能〕(1)ウ

- 目的や場面に応じて。日常生活の中から話題を集め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討することができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)ア

- 必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え、共通点や相違点などを踏まえて、自分の考えをまとめることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)エ

- 話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結びつけて考えをまとめることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕A(1)オ

- 目的や意図に応じて、日常生活の中から題材を集め、集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にすることができる。

〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ア

### 3 学習計画(全6時間)

第1次 「きく」とは

「聞く」と「聴く」の違いを確認する

第2次 耳を澄ます

(1)映像のみのCMにナレーションを付す

(2)身の回りの映像(無音)を言語化する

(3)身の回りの音を言語化する

(下記実践指導案)

(4)写真を言語化し、詩を創作する

第3次 詩の鑑賞

表 公開授業の流れ

学習活動	教師の支援・意図・評価
1 導入の音声聞く ① 卓球のラリー音 ② 野菜を切る音	○生徒が考えやすいよう、聞き取りやすい音声から聞かせていく。
2 「東京駅の喧騒」の音声を聞き、考える	○なるべくたくさんの音に気付けるよう、個人で考えた後、グループで共有する。 ○「〇個以上探そう」といった具体的な目標を示す。また、「足音」だけでなく、どのような足音のかも想像させるよう仕向ける。 ◆個人思考からグループで共有することで、様々な音が聞こえていることに気付かせる。 ○グループで確認した後、再度同じ音声を聞かせる。 ○誰も聞こえていない音を見つけるよう伝える。 ○全体で確認する。 ○再度、個人で聞かせてワークシートに書かせる。 ○この音声のストーリーを考えさせる。
3 次時の確認をする	○次時は写真から音声を考えることを伝える。
4 本時の授業の振り返りをする	○「耳を澄ます」ことについて日常生活と関連付けて書かせる。

## 2.3. 授業の様子

第1次では、「聞く」と「聴く」の違いについて確認した。「聞く」は自然ときこえてくる、BGMと同じである、「聴く」は意識してきくことだと確認し合ったが、普段の先生の話はどちらで聞いているのかを挙手により尋ねてみると、「聞く」だと答えた生徒は全体の約7割を占めていた。また、人の話を聞いておらず失敗した経験があると答えた生徒はほとんどであった。図1に示した生徒の失敗談の多くは「ぼーっとして聞いて聞き逃した。」「よく聞いていなくて、周りと違うことをしていた。」というものが多く挙げられた。

第2次では、映像(CM・朝の風景)→音声(野菜を切る音・東京駅の喧騒)→静止画(構内の写真)の順に聞こえていない部分や見えていない部分に注意を払って音を想像するという活動を行った。第2次の最後には、生徒それぞれに「音を感じる写真」というテーマで学校の各所の写真を撮らせ、その中の一枚に音を付すという活動を行った。更には、想像した音から詩の創作を行った。

第3次では、教科書の詩を鑑賞し、表記されていること以外に想像できることについて五感を働かせながら読み取った。生徒の感想は次のようなものであった。

- ぼーっとしていて、話を聞き逃したこと、うまくコミュニケーションが取れなかったこと。
- 口を挟まれた。
- 先生の話をちゃんと聞いていたつもりで頭の中に入っていないと他の人と違うことをしていた。
- 人の話を聞かずに自分の話をしてしまったことがある。
- 違う意味でとらえてしまって話が噛み合わなかったこと。
- たくさんのことを一気に言われて最初に聞いたことを中心に忘れていったこと。

### 3 成果と課題

#### 3.1 単元学習の成果

本単元は「きく」ということに重点を置いた単元であったため、生徒達は様々な音に耳を向けようと集中して授業に臨んでいた。日常は様々な音であふれているが、自然に聞いているようでも、生徒それぞれが自分なりの枠組みを持って聞いている。自分なりに何かを取り出そうとすること、流れている音を主体的に解釈しようとする、記憶の中にあるものを結びつけて考えることこそが「やりくり」であり、今回の実践では、答えと言えない問いに対して、何かを見出そうとする集団のやりくりが個人のやりくりにつながったと言える。また、聞こえないもの、見えないものに対しても、無から有を見つけ出そうと想像力を膨らませていたように感じる。

#### 3.2 今後の課題

今回、「きく」に重点を置いた単元を構成したが、教科書にない単元だったため、生徒自身も何を考えてよいのか分からず、すっきりしないままに授業を終えてしまった生徒が多かったように感じた。その状況を踏まえて単元の最後に詩の創作と鑑賞の授業を入れたが、つながりが今ひとつであった。答えのない課題にも興味、関心を持って取り組む姿勢を養うことの必要性を感じた。

また、映像から音を想像するという展開にしたことで授業の導入としては楽しく始めることができたが、映像が長いものになればなるほど生徒達の集中が続かず、記憶を元に話し始めるようになった。その結果、適当な意見が多くなってしまい、意識して「きく」こと、よく「きく」ことの深まりにつながらなかった。より多面的で重層的な気づきを引き出せるような工夫が必要と感じた。

生徒の振り返りから、本単元を通して、能動的に聞くことへの意識を高めた生徒は、自分が想像

した音に加えて、友達の意見からの発見も多く、他者理解の深まりを感じた。一方で、自分の意見ばかりを主張してしまう生徒もおり、今後も継続的な場の設定が必要であると感じている。

以下に授業後の生徒の振り返りを掲載する。

- 音のない映像でも、自分で想像するといろいろな音が聞こえる感じがした。
- 音だけ聞いたときに何の音かよくわからないほど日常の音と似ていて、もっと日常の様々な音に耳を傾けていきたいと思った。
- 駅の音を聞いていると、ホームの様子が浮かんできた。
- ただの写真でもよく考えれば「朝」の音がたくさん聞こえてきた。
- 詩の創作では、音を想像して「朝」の音をたくさん入れることができた。
- 音だけきくと大体何をしているのかの創造がつくけれど、他にどのような背景があるのかを考えるのが難しかった。
- 情報が少ない中で音を見つけるのは難しかったが、想像力を広げて周りのいろいろな音を感じ取れて楽しかった。
- 映像に実況をつけるのは意外と難しいと感じたが、世の中にはいろいろな音が飛び交っていることがわかった。
- 聞こえないところは自分で補っていく必要があると感じた。しっかり聞いて必要な情報を理解する。
- その写真の中にいたらたくさんの音があると思うけど、視覚だけだとその写真の中の音を想像するのは難しかった。
- 音がその場所の背景を表すことがわかった。
- 映像を見ているとどどんナレーションが浮かんできた。いくつかつくれるかなと思う。

図2 生徒の振り返り

#### 参考文献

文部科学省(2018)中学校学習指導要領解説 国語編. 東洋館出版社